令和６度社会福祉法人さゆり会事業報告書

１．法人の運営

（１）所在地　　長崎県五島市下崎山町６９９番地

（２）直近の法人職員数等について

○　最も直近（令和７年４月１日現在）で集計した法人全体の職員数は、２９６名となっており、前年度と同数になっています。また、事業分野別、雇用形態別、年齢別の職員数は下表のとおりとなっています。

（単位：人）

事業分野別	児童	高齢者	障害者	合計
Ｒ７．４実績	２５	１９８	７３	２９６
Ｒ６．４実績	２２	２００	７４	２９６
Ｒ５．４実績	２４	２０２	７３	２９９
Ｒ４．４実績	３５	１９９	６６	３００
Ｒ７．４全体比	８％	６７％	２５％	１００％

雇用形態別	正規職員	準職員	パート
Ｒ７．４実績	１４４	６５	８７
Ｒ６．４実績	１４８	７０	７８
Ｒ５．４実績	１５４	６２	８３
Ｒ４．４実績	１４６	６３	９１
Ｒ７．４全体比	４９％	２２％	２９％

※日々雇用者は集計に含まれていません。

年　齢　別	２０代以下	３０代	４０代	５０代	６０代以上
Ｒ７．４実績	３０	５８	７２	６７	６９
Ｒ６．４実績	３０	５８	７２	６７	６９
Ｒ５．４実績	２７	６８	７４	６１	６９
Ｒ４．４実績	３０	６８	７６	５６	７０
Ｒ７．４全体比	１０％	２０％	２４％	２３％	２３％

※全体比の数値は全職員数に対する割合（少数１位四捨五入）です。 また、ひまわりルームの職員数（Ｒ７．４は１０名、Ｒ６．４は１０名）は、障害者分野の数値に含まれています。

○　過去５年間の退職者数は、次のとおりです。

＜事業分野別＞　　（単位：人）

	児童	高齢者	障害者	合計
令和６年度	２ （　４％）	３３ （６６％）	１５ （３０％）	５０ （１００％）
令和５年度	２ （　４％）	３７ （６７％）	１６ （２９％）	５５ （１００％）
令和４年度	１２ （２１％）	３４ （６１％）	１０ （１８％）	５６ （１００％）
令和３年度	５ （９％）	４４ （８３％）	４ （８％）	５３ （１００％）
令和２年度	６ （１６％）	２３ （６１％）	９ （２４％）	３８ （１００％）

※（　）内の数値は各年度退職者数に対する割合（少数１位四捨五入）です。
※令和６年度退職者数は、全職員２９６人（Ｒ６．４）の約１７％（Ｒ５年度１８％、Ｒ４年度１９％）になります。

＜雇用形態別＞　　＜年齢別＞

	正規職員	準職員	パート	20代以下	３０代	４０代	５０代	60代以上
令和６年度	１６ （３２％）	１２ （２４％）	２２ （４４％）	６ （１２％）	８ （１６％）	９ （１８％）	９ （１８％）	１８ （３６％）
令和５年度	２１ （３８％）	８ （１５％）	２６ （４７％）	４ （　７％）	７ （１３％）	１６ （２９％）	８ （１５％）	２０ （３６％）
令和４年度	１２ （２１％）	１４ （２５％）	３０ （５４％）	８ （１４％）	９ （１６％）	７ （１３％）	１７ （３０％）	１５ （２７％）
令和３年度	２１ （４０％）	１３ （２５％）	１９ （３６％）	５ （９％）	１１ （２１％）	９ （１７％）	１３ （２５％）	１５ （２８％）
令和２年度	５ （１３％）	１３ （３４％）	２０ （５３％）	５ （１３％）	８ （２１％）	９ （２４％）	５ （１３％）	１１ （２９％）

※（　）内の数値は各年度退職者数に対する割合（少数１位四捨五入）です。
※令和４年度新規雇用者（４９名）の内、令和７年４月１日現在の在職者（２６名）の定着率は、約５３％（Ｒ３年度５２％、Ｒ２年度６３％）となっており、３年間で約４７％の職員が退職している状況です。

以上から分かるとおり、当法人の職員数構成は、ほぼ各分野の予算規模に呼応するように、児童分野で約８％、高齢者分野で約６７％、障害者分野で２５％となって、これまでと同じような結果になっています。また、令和５年度当初には初めて正規職員数が非正規職員数を上回る結果となっていましたが、令和７年度当初には再度正規職員数が非正規職員数を下回る状況になっているのは残念なところです。事業運営の安定を図るためには、もう少し正規職員の比率を上げる必要性があると考えています。しかしながら、雇用形態別の比率の動きを見ても、職員それぞれに多様な働き方の選択肢がないと職員の確保は難しいと感じていますし、事業所側の思いだけで採用に臨むことは非常に危険だと考えています。

年齢別構成では、これまで同様、２０代以下の職員数が他の年代の半分にも満たない状態が続いていますので、次代を担う職員不足は解消すべき喫緊の課題となっていますが、現状では新規学卒者を採用することは極めて厳しいと言わざるを得ません。しかしそれでも新卒者への働きかけを継続強化していく必要があると考えています。

直近５年間の退職者数を見ると、令和６年度の退職者数が５０名に上っており、直近３年の実績から比較するとわずかに減少したものの、職員全体の約１７％が退職していることから、これまで同様に深刻な状況は変わっていません。当面の間、令和２年度の状況（一般の中小企業の平均離職率の１２～１３％程度）まで戻すことを目標にしたいと思います。中でも障害者分野の離職率が比較的高くなっていることや正規職員の離職率をさらに減少させることを念頭に置いて離職率の減少に一層努めていきたいと思います。

（３）主な事業実績概要

①　全般的な財務状況について

法人全体の財務諸表の概要及び財務指標は下表のとおりとなりました。

資金収支計算書により当初予算と比較しますと、事業活動収入は、わずかに０．５％しか増加（昨年度２．５％増加）しなかったものの、事業活動支出は、０．６％とわずかながら減少したため、事業活動資金収支差額は、当初予算見込より１２．９％の増加（昨年度３０．

３％の増加）となりました。しかしながら、令和６年度は、松寿園のボイラーの取替え工事やひまわりルーム（あゆみの舎）の増築工事に伴う支出、宿泊事業やグループホーム大浜２号棟建設に伴う支出に加えて、有価証券への投資を行ったり、事業費・事務費の増額等があったことから、施設整備等による収支やその他の活動による収支が大きなマイナス計上となり、最終的な当期資金収支差額合計が、４，３１０千円のマイナス計上となりました。この金額は、当初見込み金額より４０，０００千円余りの減額ということになります。

以上のとおり、今年度の資金収支差額合計は、これまでに経験のないマイナス計上となりましたが、有価証券への投資額５０，０００千円の計上をしなければ、逆に４５，６９０千円のプラスになりますので、これまでにない状況ではなくなります。

事業活動計算書により昨年度決算額と比較しますと、サービス活動収益は０．９％増加となって、わずかながら増加（昨年度２．４％の増加、一昨年度４．３％の増加）しました。しかし、サービス活動費用も１．９％増加（昨年度０．３％増加、一昨年度５．５％の増加）になったことから、サービス活動増減差額は１６．２％の減少（昨年度６３．４％の増加、一昨年度２１．６％の減少）となりました。そのため、経常増減差額も昨年度より９．７％減少（昨年度５６．９％増加、一昨年度１９．５％減少）して６７，２０８千円となりました。その結果、当期活動増減差額は昨年度より１７．４％減少（昨年度６５．０％増加、一昨年度２０．７％減少）して６３，５４２千円となりました。最終的に次期繰越活動増減差額は、７．１％増加（昨年度１０．６％増加、一昨年度４．１％増加）して
１，３８８，６１７千円となりました。

以上の結果から、昨年度と比較するとサービス活動増減差額や経常増減差額、当期活動増減差額は減少していますが、一昨年度と比較すると増加していることになります。

最終的な次期繰越活動増減差額も前年度より、９２，５５０千円の増額となっていますので、昨年度と比較しても大きな減少とは言えないと思っています。

貸借対照表において昨年度決算額と比較しますと、資産総額としては、１．４％の減額（昨年度１．７％増額、一昨年０．８％減額）となり、３，１４８，１１６千円となりました。

一方、負債総額も、８．４％減額（昨年度０．９％増額、一昨年度３．３％減額）となって、９５２，５２５千円となったことから、結果的に、純資産額は、昨年度より２．０％増加（４３，７７０千円）して、２，１９５，５９１千円となりました。

上記の結果から、財務指標は下表のとおりとなりました。安全性の指標については、純資産比率が昨年度より２．３％上昇して６９．７％となり、新たに引き上げた目標値にわずかに届きませんでした。固定長期適合率も０．２％改善して７２．８％（昨年度７３．０％、一昨年度７４．６％）となりました。借入金比率は昨年度より６．１％低下して５１．２％となり、前年に引き続き６０％以下という目標値を達成しました。

収益性に係る総資産回転率は０．５となって、当面の目標値である０．５以上という数値に初めて達しました。社会福祉法人では概して総資産回転率が低く、これまで施設整備等において補助金を充当してきた社会福祉法人にとっては、この指標を上昇させることは難しい課題だと思いますが、ほんのわずかずつでもこの指標値を上昇できるように、今後も更に「少ない投資でより多くの収益」を上げていく経営意識を念頭において事業運営に臨みたいと思います。

最終的な利益に直結するサービス活動収益対サービス活動増減差額比率は、昨年度より０．９％低下（昨年度２．０％上昇、一昨年度２．０％上昇）して４．４％なり、目標値も超えることができませんでした。これには、昨年度より経費率が増加したことが影響していると考えられます。

人件費率は、昨年とほぼ同じ程度の６５．３％となり、昨年度に引き続き目標を達成でき

なかったこと、人件費総額自体も増え続けていることに強い危機感を感じています。
人件費の上昇については、職員の処遇改善加算に伴う支出や最低賃金の引き上げ、さらには外国籍職員の人件費や雇用に係るその他の経費等がかなり影響していると考えられます。今後も引き続き適切な人材配置等も含めて検討が必要だと思います。また、経費率については、目標値にも達せず、昨年度より数値が上昇しましたが、物価高騰は未だ継続するものと考えられますので、経費の動向については今後も注視していく必要があると思います。

資金収支計算書　（単位：千円）

	勘　定　科　目	当初予算（A）	決算（B）	B／A×１００
事業活動による収支	事業活動収入計（１）	1,563,812	1,571,866	100.5
	事業活動支出計（２）	1,429,486	1,420,227	99.4
	事業活動資金収支差額（３）	134,326	151,639	112.9
施設整備等による収支	施設整備等収入計（４）	17,446	24,392	139.8
	施設整備等支出計（５）	137,591	163,165	118.6
	施設整備等資金収支差額（６）	△120,145	△138,772	115.5
その他の活動による収支	その他の活動収入計（７）	31,332	38,073	121.5
	その他の活動支出計（８）	1,830	55,250	3,019.1
	その他の活動資金収支差額（９）	29,502	△ 17,177	△ 58.2
予　備　費（１０）		7,548	0	－
当期資金収支差額合計（１１）		36,135	△ 4,310	△ 11.9
前期末支払資金残高（１２）		883,467	928,649	105.1
当期末支払資金残高（１３）		919,602	924,339	100.5

※（３）＝（１）－（２）、（６）＝（４）－（５）、（９）＝（７）－（８）
（１１）＝（３）＋（６）＋（９）－（１０）、（１３）＝（１１）＋（１２）
※　記載された金額は、千円未満を４捨５入しているため、数値が一致しない場合がある。

事業活動計算書　（単位：千円）

	勘　定　科　目	当年度決算（A）	前年度決算（B）	A／B×１００
サービス活動増減の部	サービス活動収益計（１）	1,561,139	1,546,582	100.9
	サービス活動費用計（２）	1,493,047	1,465,371	101.9
	サービス活動増減差額（３）	68,092	81,210	83.8
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計（４）	11,288	5,512	204.8
	サービス活動外費用計（５）	12,172	12,335	98.7
	サービス活動外増減差額（６）	△ 884	△ 6,824	13.0
経常増減差額（７）		67,208	74,387	90.3
特別増減の部	特別収益計（８）	19,880	14,610	136.1
	特別費用計（９）	23,545	12,036	195.6
	特別増減差額（１０）	△ 3,665	△ 2,574	142.4
当期活動増減差額（１１）		63,542	76,961	82.6
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（１２）	1,296,067	1,172,105	110.6
	当期末繰越活動増減差額（１３）	1,359,609	1,249,066	108.9
	基本金取崩額（１４）	0	0	
	その他の積立金取崩額（１５）	30,104	70,001	43.0
	その他の積立金積立額（１６）	1,097	23,000	4.8
	次期繰越活動増減差額（１７）	1,388,617	1,296,067	107.1

※（３）＝（１）－（２）、（６）＝（４）－（５）、（７）＝（３）＋（６）、（１０）＝（８）－（９）
（１１）＝（７）＋（１０）、（１３）＝（１１）＋（１２）、（１７）＝（１３）＋（１４）＋（１５）－（１６）

貸借対照表　（単位：千円）

資産の部			
科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,022,304	1,033,502	△ 11,197
固定資産	2,125,811	2,157,732	△ 31,920
資産の部合計	3,148,116	3,191,233	△ 43,118
負債の部			
流動負債	228,180	236,112	△ 7,932
固定負債	724,344	803,300	△ 78,956
負債の部合計	952,525	1,039,412	△ 86,888
純資産の部			
基本金	152,618	152,618	0
国庫補助金等特別積立金	562,560	582,332	△ 19,773
その他の積立金	91,796	120,804	△ 29,008
次期繰越活動増減差額	1,388,617	1,296,067	92,550
（うち当期活動増減差額）	63,543	76,961	△ 13,418
純資産の部合計	2,195,591	2,151,821	43,770
負債及び純資産の部合計	3,148,116	3,191,233	△ 43,118

財務指標

財務指標	算　式	指標値	目標値	前年度値	備　考
純資産比率 （自己資本比率）	（純資産／総資産）×１００	６９．７ (73.1)	７０．０ 以上	６７．４	安全性 ５０%以上
固定長期適合率	（固定資産／（純資産＋固定負債）） ×１００	７２．８ (85.8)	７５．０ 以下	７３．０	安全性 １００%以下
借入金比率	（（設備資金借入金＋長期運営資金借入金）／サービス活動収益）×１００	５１．２ (47.4)	６０．０ 以下	５７．３	安全性 １００%以下
総資産回転率	サービス活動収益／総資産	０．５０ (0.43)	０．５０ 以上	０．４８	収益性
人件費率	(人件費／(サービス活動収益－就労支援事業収益))×１００	６５．３ (67.3)	６５．０ 以下	６５．４	
サービス活動収益対サービス活動増減差額比率	（サービス活動増減差額／サービス活動収益）×１００	４．４ (2.5)	５．０ 以上	５．３	収益性
経費率	（（事業費＋事務費）／サービス活動収益）×１００	２２．６ (24.1)	２０．０ 以下	２１．４	

※指標値欄の下欄に示す（　）内の数値は、（独）福祉医療機構が全国の社会福祉法人（６，９３０（Ｈ２９）・８，３５０（Ｈ３０）法人）の平成２９・３０年度決算の数値に基づいて算出した平均値を記載した。人件費率以下が令和３年度の数値になります。
※備考欄に示す数値は一般的に望ましいとされる数値を記載した。

②　長期借入金について

本年度は別表１のとおり長期借入金の償還を行いました。
また、令和６年度における新規の長期借入金は、実績がありませんでした。

借　入　先	借入時期	借入目的	金　　額	借入期間	借入利率%
合　計					

③　短期借入金について
令和６年度末に残高が計上されている短期借入金は、次のとおりです。

拠　点　区　分	令和５年度末	返　済　額	新規借入額	令和６年度末
高齢者住宅ひだまりの舎（利率1.650%）	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000
職員住宅事業（利率1.840%）	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000
宿泊事業（利率上段1.650、下段1.860%）	0	0	8,000,000 15,200,000	23,200,000
合　計	9,500,000	9,500,000	32,700,000	32,700,000

※　利率については、直近の利率を掲載しています。

④　事業総括について
○　児童福祉事業について
ア）こもれびの舎こども園については、年間の平均入所率が１０２％となり、年間を通して定員を充足することができました。特に１号認定児の入所が多く年間を通して１０人の定員を超えたため給付費収入の増加につながりましたが、一方で保育教諭の配置数が基準ギリギリであったことから、職員配置にかかる加算給付等を取得することができませんでした。そのため最終的には予算で見込まれた収入額を下回る結果となりました。
今年度においては定員を充足しての運営となりましたが、今後については、令和７年度当初の利用児童数や五島市におけるこどもの出生数を見ますと、利用児童数の減少傾向は、今後も継続していくものと考えられます。私共としては、利用児童数の減少率をできるだけ小さくできるように、地域の皆様から選択していただける園作りを今後も継続していきたいと思います。
なお、児童クラブについては、定員を超える４７名の児童を年間を通して受け入れることができました。しかし、児童クラブについては、対象校区が緑丘小学校と福江小学校区の２か所となっていたことから、送迎への対応が児童クラブの職員だけではできず、こども園の職員のサポートを受けなければできない状況でした。そこで、緑丘小学校区の保護者に協力をいただいて、令和７年度からは福江小学校区の児童のみを受け入れることと致しました。校区を１つに絞ることで利用児童の大きな減少も懸念されましたが、令和７年度当初の利用児童数をみると現在４１名となっていることから、収入的にも運営に支障は生じない状況であり、設備規模的にもわずかながらこれまでより余裕のある運営ができるものと考えています。
財務内容としては、年間を通して定員を超えての運営ができたことで、当期資金収支差額合計は、昨年度（１５，０００千円超）よりは減少したものの、７，０００千円を超える黒字計上となりました。
しかしながら、一昨年までの資金収支では数年間赤字計上が続いていたことや人件費率が７３％を超えていること、事業費の増加が継続していること、今後も利用児童数の

減少が見込まれること等を勘案すると決して楽観できる状況にはないものと考えています。引き続き人件費や各種経費の削減に努める必要があると考えています。

イ）ひまわりルームについては、令和６年１２月１日から児童発達支援センター（定員１６名）に移行しました。昨年度は新型コロナウイルスの影響から抜け出して、わずかながら利用実績も回復の兆しが見えていましたが、下表から分かるとおり、今年度も年間利用者延べ総数はわずか（８９名）ながら昨年度より増加する結果となりました。今年度は、２か年度にわたって実施してきた「あゆみの舎」の増築工事完了が９月末までかかったことから、それまでの期間は旧崎山保育園の建物を一部借用しての事業展開を強いられたことを考えますと、昨年度の実績を超える結果となったことは予想を上回る結果だったと考えています。今後においても、令和３年以前の利用実績を目指して欲しいところですが、利用児童数も減少していくと見られることから、そこまでの回復は極めて厳しいと考えますが、少しでも目標に近づけるよう努めていただきたいと思います。

財務内容としては、拠点全体の資金収支が約６，５００千円の赤字計上となっていますが、令和６年度における増築工事のための支出増の影響を除きますと、赤字幅は１，５００千円余りまで減少することになります。昨年度の大幅赤字よりは改善しているものの赤字計上であることは変わりません。こうした赤字計上を今後も計上することは何としても防がなければなりません。資金収支の改善のためには、人件費率が９０％を超えて非常に高くなっていますので、これを削減できればと考えるところですが、人件費の削減は賃金上昇が社会的に叫ばれている現状では極めて難しいと言わざるを得ません。最終的には事業活動収入を増加させることが絶対的に必要となります。そのためにも　児童発達支援センターに移行する段階で変更していた定員１６名を以前の２０名に変更して、１日当たりの利用人数を制限しないで済むような環境を整えて、年間の利用者延べ総数を増加できるように努めていきたいと思います。

事業種別	年度別年間平均利用者数　（人）				
	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度
児童発達支援	５．７	５．７	４．７	７．０	７．０
放課後等デイサービス	７．４	７．５	７．１	８．２	７．７
合　計	１３．１	１３．２	１１．８	１５．２	１４．７
保育所等訪問支援	７１	７０	６３	５７	４８

※Ｒ６年度年間利用者延べ総数　児童発達支援　１，５７６名（Ｒ５：１５０８名）
放課後等デイサービス　２，０３８名（Ｒ５：２，０１８名）
保育所等訪問支援　７１名（Ｒ５：７０名）
３事業合計　３，６８５名（Ｒ５：３，５９６名）
開所日数　２７５日（Ｒ５：２６８日）

○　高齢者福祉事業について

ア）高齢者福祉分野の居住施設・事業所における過去５年間の年間居室稼働率・平均介護度実績は、下表のとおりとなりました。

＜事業所別年間居室稼働率・平均介護度＞

事業所名	年間居室稼働率（%） 平均介護度					備　考
	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度		
只狩荘	９７．２	９６．７	９５．０	９６．２		定員５０名
	3.8／2.9	4.0／3.1	3.8／3.3	3.9／3.0		短期１０名
グループホーム大浜	９６．８	９８．１	９６．０	９７．３		定員９名
	２．６	２．５	２．７	２．４		
ゆたっとはうす	９５．４	９５．８	９５．８	９５．９		定員９名
	２．５	２．９	３．６	２．９		
松寿園	９８．２	９９．３	９９．２	９８．０		定員５０名 （短期２名）
グルーホーム ひだまりの舎	９３．３	９７．７	９５．６	９５．７		定員９名
	３．３	３．１	２．７	２．５		
サ高住ひだまりの舎	９６．８	９６．６	９０．８	９２．１		定員２２名
	２．４	２．４	２．７	２．６		
ショートステイ女神乃里	８９．１	８６．９	８２．２	７２．９		定員２９名
	３．３	３．０	３．３			

※　上表中の数値は、小数点第２位を四捨五入した値を掲載しています。

※　只狩荘における居室稼働率は、施設全体６０床稼働率（報酬発生）を掲載しています。また、平均介護度については、定員５０床分と短期１０床分にかかる介護度を各々左右に分けて掲載しています。

※　松寿園における居室稼働率は、措置費収入が毎月の初日実人員によって支払われることから、月初実人員の合計人員を６００名（５０名×１２月）で除した数値を掲載しています。平均介護度については、事業所の報告書に記載がなかったことから掲載していません。

なお、これまでの事業報告書において、松寿園の居室稼働率として掲載してきた数値が、記述者の勘違いにより実際より少し低い数値となっていましたので、今回訂正させていただきましたのでご了承ください。

上表から、令和６年度は只狩荘やサービス付き高齢者向け住宅ひだまりの舎、ショートステイ女神乃里が比較的高い居室稼働率を達成したことが分かります。特にショートステイ女神乃里においては、年を追うごとに居室稼働率を上昇させており、職員の皆様方の日々の努力が着実な成果へと上手く繋がっている状況が伺えます。

一方で、グルーホームひだまりの舎では、近年になく低い居室稼働率となっていますが、令和６年度においては、定員９名中４名の退所者があったことが大きく影響しているものと思います。しかし、平均介護度が「３．３」で只狩荘に次いで介護度が高い状況の上に、１名は施設内での看取りを行っていますので、職員の皆様にとっては気が抜けず緊張を強いられた１年だったのではないかと思います。１ユニット型のグループホームにおいては、定員が少ないことから何らかの出来事で大きく居室稼働率が上下することは、致し方ない側面もあると思います。ただ、グルーホームひだまりの舎では平均介護度が年々上昇していますので、これ以上の上昇があると現在のような少数の職員ではサービス提供が困難になる場面もあることは念頭に置いておく必要があると思います。

イ）高齢者福祉分野のデイサービス事業における過去５年間の年間利用者延人数、１日平均利用者数等実績は、下表のとおりとなりました。

＜事業所別年間利用者延人数、１日平均利用率等＞

事業所名	年間利用者延人数／開所日数 １日平均利用者数／利用率 要介護者平均介護度				
	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度
みはらし荘 （定員１８名）	4,202／309 13.6／75.6 ２．１	4,776／310 15.4／85.6 ２．１	4,341／307 14.1／78.3 ２．２	4,877／311 15.7／87.2	5,159／306 16.9／93.9
只狩荘デイサービスセンター （定員１８名）	4,238／259 16.4／91.1 １．６	4,394／257 17.1／95.0 １．７	4,269／251 17.0／94.4 １．６	4,833／262 18.4／102.2 １．９	5,246／309 17.0／94.4 １．５
ひだまりの舎デイサービスセンター （定員１８名）	5,213／309 16.9／93.9 ２．５	5,241／307 17.1／95.0 ２．４	4,960／324 15.3／85.0 ２．６	5,785／362 16.0／88.9	5,657／362 15.6／86.7
デイサービスセンター大浜 （定員１０名）	1,537／256 6.0／60.0 ２．１	2,006／267 7.5／75.0 ２．４	2,383／303 7.9／79.0 ２．１	2,113／304 7.0／70.0 ２．１	2,033／308 6.6／66.0 ２．５

※　上表中の数値は、小数点第２位を四捨五入した値を掲載しています。

※　ひだまりの舎デイサービスセンターにおいては、現在週６日の営業を行っていますが、令和４年度の７月までは毎日営業（うち２日は半日の営業）を行っていました。

上表から、デイサービス事業所においては、前年度の実績を上回る事業所は１か所もありませんでした。中でもデイサービスセンター大浜とみはらし荘における実績の落ち込みが目立っており、これまでになく低い実績となりました。近年の状況を見てもデイサービス事業の需要自体が縮小傾向にあることが伺えること、そして今後においても介護サービスの第１選択肢が施設入所であることは変わらないと思われることから、みはらし荘においては、これまでの週６日の営業から週５日の営業へ、デイサービスセンター大浜においては、週５日の営業から週３日の営業にそれぞれ営業日数を減少させることとなりました。そうすることで１日当たりの通所者数を一定程度確保し、経営の効率化を図ることができるものと思います。

ウ）令和４～６年度の高齢者福祉分野における拠点別の当期資金収支差額合計と人件費率を見てみると下表のとおりとなっています。

＜事業所別当期資金収支差額合計、人件費率＞　　金額単位（円）

	令和６年度		令和５年度		令和４年度	
拠点名	当期資金収支差額合計	人件費率（%）	当期資金収支差額合計	人件費率（%）	当期資金収支差額合計	人件費率（%）
只狩荘	7,872,600	64.1	-79,809	66.8	-12,491,865	65.5
ＧＨ大浜	-5,001,492	75.1	-698	73.8	114,438	71.7
みはらし荘	-445,543	77.2	11,163,402	71.4	5,578,209	73.1
松寿園	-1,732,395	58.9	29,817,782	56.1	-16,150,181	65.5
ひだまりの舎	4,137,314	64.9	4,210,793	65.4	-50,147	66.2
女神乃里	349,127	60.0	-415,990	64.3	-1,483,131	67.6
合　計	5,179,611	65.1	44,695,480	65.5	-24,482,677	67.2

※ＧＨ大浜拠点の数値は、有料老人ホームも含めてのものとなっています。

※ひだまりの舎拠点の数値は、サービス付き高齢者住宅も含めてのものとなっています。
※人件費率の計算は、資金収支計算書の事業活動収入の数値を用いて計算しています。

高齢者福祉分野における令和６年度の財務事業実績は、上表から分かるとおり、全体としては資金収支において何とかプラス計上になりましたが、昨年度と比較すると資金収支としては大きく悪化する結果となりました。しかし、これについては、松寿園における令和５年度の当期資金収支差額が令和４年度からの大規模修繕工事費支払い等の関係で大きく膨らんだことが影響していますので、工事の影響を除くと実際は令和５年度の当期資金収支差額合計は随分縮小することになります。

特に財務状況に大きな影響のある人件費率を見ますと、ＧＨ大浜拠点やみはらし荘拠点において、他の事業拠点よりも一段と高い結果になっていると同時に、数年にわたってそうした状況が続いていますので、これらの拠点においては、今後人件費の適正化について検討する必要があると考えています。

それでも、令和２年の開所以来、資金収支においてマイナスの計上が続いて、他の事業所からの資金提供も受けて運営をしてきたショートステイ女神の里拠点において、わずかではありますが、当期資金収支差額を黒字計上できたことは大いに評価できるところです。今後も引き続き資金収支におけるプラス計上を継続できるよう努めていただきたいと思います。

なお、高齢者福祉分野全体における平均人件費率は、下表の数値で算出しました。下表によると人件費そのものが増加している状況は見られません。

＜事業活動収入及び人件費＞　　金額単位（円）

年　度	事業活動収入合計	人件費合計	人件費率	備　考
Ｒ６年度	1,002,542,688	652,856,854	65.1	
Ｒ５年度	1,004,170,014	657,743,579	65.5	
Ｒ４年度	970,947,962	652,856,854	67.2	

エ）さゆり会ケアマネジメントセンターにおいては、ブラン作成件数が少なくなっている現状に鑑みて、令和５年度から職員体制をそれまでの６人体制から５人体制に変更して事業を実施してきました。それでも下表から分かるとおり、年間の介護給付プラン作成件数が徐々に減少しているため、令和６年度において目標としていた介護給付プランの一人・一月当たり３３件という目標を達成することはできませんでした。主な要因としては、利用者の方々の施設入所や入院及びご逝去が相次いだことが大きく影響しているものと思います。加えて高齢者人口そのものが減少していることにより根本的な要因があるのだと思います。そうした私共ではどうしようもできない現状はありますが、少しでも実績の低下を抑制するためには、地域や高齢者の皆様方から、どうすれば選択していただける事業所になれるかを不断に考え続けることが大事なことだと思います。

以上のとおり、介護（予防）給付プラン作成件数実績は減少傾向にありますが、事業活動収支においては、プラス計上となっています。そのため他のサービス区分に繰入金支出をできていることは心強い限りです。ただ、人件費率としては７０％を大きく超えることも多いため、できれば６０％代の人件費率を達成していただきたいと思います。

さゆり会ケアマネジメントセンター女神においては、今年度終盤になって専従のケアマネ職員が退職をしました。現在は管理者を兼務するケアマネ職員がわずかなプラン件数を作成している状況です。できるだけ早く専従のケアマネ職員を配置できるよう努めたいと考えています。また、こうした状況のため現在は事業の実績を問える状況ではありません。

＜事業所別年間介護（予防）給付プラン件数、職員一人当たり件数等＞

事業所名	年間介護給付プラン件数／職員一人・一月当たり件数 年間予防給付・総合事業プラン件数／職員一人・一月当たり件数 年間実質職員数				
	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度
さゆり会ケアマネジメントセンター	1,653／27.6	1,763／29.4	1,772／25.0	1,883／31.4	1,770／32.1
	307／5.1	381／6.4	461／6.5	461／7.7	513／9.3
	5.0	5.0	5.9	5.0	4.6
さゆり会ケアマネジメントセンター女神	344／28.7	461／30.7	360／24.0		
	35／2.9	64／4.3	105／7.0		
	1.0	1.25	1.25		

オ）さゆり会ヘルパーステーションにおける月平均利用登録者数及び年間訪問延べ件数等の実績は下表のとおりとなりました。今年度においては、サービス付き高齢者向け住宅の利用者による短時間身体介護件数が著しく増加したため、昨年度より３，７００件訪問実績が増加し、近年にない訪問延べ件数となりました。これは、これまで３０分のサービスとしていたものを２０分未満に短縮したことで、大幅な増加に繋がったものです。

また、財務内容としては、事業活動収入が身体介護件数の増加によって、昨年度より４，０００千円余りの増加となったため、事業活動資金収支差額が昨年度より２倍以上の金額となりました。近年にない金額ということになりました。実績が一時期大きく落ち込んでいましたが、ようやく回復をしてきた感があります。こうした状況は、近年職員の平均年齢が一時期より低下してきたことも関係しているのではないかと考えています。

＜月平均利用登録者数及び年間訪問延べ件数等＞

	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度
月平均利用登録者数	51.8	41.8	34.9	42.4	60.0
年間訪問延べ件数	14,461	10,781	9,439	10,432	12,545
事業活動収入計	39,256,587	35,123,871	28,604,820	26,574,065	32,842,795
事業活動資金収支差額	6,917,933	3,231,359	2,047,243	1,068,714	2,698,555
人件費率	79.0	87.3	88.6	91.4	85.4

カ）さゆり会訪問看護ステーションにおける月平均実利用登録者数及び年間訪問延べ件数等の実績は下表のとおりとなりました。

今年度は過去２年間と比較すると実績の向上が見られ、先ずは少し安心を得たところですが、令和３年度以前の実績には遠く及ばないのが実状です。また、今後も人件費やその他の経費の上昇が見込まれる中で、事業活動収入の増加を図ることは避けて通れない課題となっています。今年度の事業活動収入は昨年度より増加しているものの、人件費率は昨年度よりさらに上昇していますので、人件費の伸びに収入が追い付いていないことが分かります。人員配置が絡む問題でもありますので、短期的な解決は望めないところですが、中長期的な視点での計画をもって取り組んでいきたいと思います。

一方、最低の人員配置（２．５人）で、人員に余裕のない状態での勤務が続きますと職員自体にも仕事への負担感が大きくなって、精神的に不調をきたす恐れもありますので、そうした点も、しっかり念頭に置きながら慎重な事業運営に努めたいと思います。

＜月平均実利用登録者数及び年間訪問延べ件数等＞

	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度
月平均実利用登録者数	40.2	38.5	37.7	48.0	45.9
年間訪問延べ件数(全体)	2,304	2,180	2,282	2,907	3,049
同　上　(介護保険)	1,170	1,102	1,254	1,668	1,992
同　上　(医療保険)	1,134	1,078	1,028	1,239	1,057
事業活動収入計	26,339,810	24,798,534	25,753,173	30,160,086	34,204,121
事業活動資金収支差額	1,925,838	2,197,998	1,696,241	3,943,637	5,998,330
人件費率	79.5	78.0	80.7	75.8	70.2

○　障害者（児）福祉事業について

ア）居住（共同生活援助）事業所における年間居室稼働率実績は、下表のとおりとなりました。

＜事業所別年間居室稼働率＞

事業所名	年間居室稼働率（%）					備　考
	Ｒ６年度	Ｒ５年度	Ｒ４年度	Ｒ３年度	Ｒ２年度	
やまゆり荘	９７．８	９３．０	９５．８	９３．２	９４．１	定員１９名
グループホーム福江	９２．３	９７．４	９５．９	９９．５	９４．６	定員１７名
ちゃっとはうす	８７．５	９１．６	９４．４	８７．７	９６．７	定員２２名
平均居室稼働率（全体）	**９２．３**	**９３．８**	**９５．３**	**９３．０**	**９５．２**	定員計５８名

※　ちゃっとはうすは、Ｒ６年７月から４か所の外部サービス型事業所が合併して１つの事業所になったことから、Ｒ５年度までの稼働率は、４か所の事業所の平均稼働率を掲載しています。

令和６年度は、共同生活援助事業所がこれまでの６事業所から３事業所に再編されました。共同生活援助事業所においては、居室稼働率を最低でも９３%以上にすることを目標としていますが、今年度は目標を達成できたのは「やまゆり荘」のみであり、「グループホーム福江」や「ちゃっとはうす」は達成できませんでした。特に「ちゃっとはうす」においては、居室稼働率が８７．５%まで落ち込んだことから、全体としても目標の９３．０%を達成できない結果となりました。

これについては、「ちゃっとはうす４号棟」において、入居が一度も満室になることがなく、１年のうち１１か月間は２室が空室となっていたため、４号棟単独で見ると居室稼働率が６８．８%まで落ち込んだことが大きく影響しています。

「ちゃっとはうす」でも、この空室の期間において相談事業所等関係機関に情報提供を行って入居への対応をし何人か見学者も見えられましたが、当該事業所が崎山地区にあることに生活の不便さを感じられて、より便利な福江地区にある共同生活援助事業所に入居することを選択される方が続きました。共同生活援助事業所が少なかった過去においては、見学されるとほぼ入居していただくことが通常でした。障害者の方々がサービスを受ける場所を自ら選択できるようになったことは、とても喜ばしいことではありますが、当法人としては、安定した運営のために日頃からの利用者の体調管理を徹底したり、入院になった場合でも短期間で退院できるように早めの対応に努めるといったことも含めて、利用者の方々に選択していただける事業所づくりへの更なる対応が求められていると思っています。

イ）生活介護事業所「あじさいはうす」においては、令和６年度から見直された基本報酬が、これまで営業時間の長さのみの設定から個々人へのサービス提供時間で変更する方式に移行されたため、年度当初から、通所実績が低下して大きく事業活動収入も確実に減少するものと考えていましたが、その減少額については予想できませんでした。事業所としても減少幅をできるだけ小さく抑えるべく、送迎時間の見直し等に努めてきました。しかしそれでも、昨年の事業活動収入より５％以上の減少となりました。

この減少幅については、下表に示すように過去５年間でも事業活動収入が今年以上に落ち込んだ年もあることから、驚くほどの落ち込みではなかったと思っています。ただ、現在のような報酬体系が続く限り、ちょっと油断をすると生活介護事業所の事業活動収入はすぐに大幅な収入減につながることは間違いなく、特に精神障害者の利用者を主体とする事業所においては、その危険性が高いことを今後も忘れないようにする必要があると思います。

また、「あじさいはうす」においては、下表に示されるように、これまで人件費が非常に低く抑えられて来たことから、当期資金収支差額の金額も大きくなって、これまでの障害福祉サービス事業全体の財務内容の健全化に大きく貢献してきました。私共も「あじさいはうす」のそうした状況を当たり前のように期待してきた面がありますが、今後においては、そうした期待を過度に持たないように注意する必要があると思います。

＜あじさいはうす事業活動収入及び人件費＞　　金額単位（円）

年　度	事業活動収入合計	人件費合計	人件費率	備　考
Ｒ６年度	46,356,807	28,105,385	60.6	
Ｒ５年度	48,894,083	27,499,963	56.2	
Ｒ４年度	50,500,414	27,876,021	55.2	
Ｒ３年度	45,112,216	27,711,542	61.4	
Ｒ２年度	50,462,310	25,957,039	51.4	

ウ）就労継続支援Ｂ型事業所における直近５年間の主な年間実績は下表のとおりとなりました。

事業所名	年間延利用者数					年間平均利用者数				
	開所日数									
	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R6年度	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度
みつたけ荘	4,536	4,525	4,402	4,139	4,640	17.4	17.3	16.9	15.9	17.8
	260	261	260	260	260					
けいぷはうす	5,624	5,243	5,225	5,104	4,629	21.8	20.4	20.2	19.6	17.8
	258	257	259	260	260					
ブルワーク	3,547	3,670	3,749	3,953	4,312	13.8	14.3	14.5	15.2	15.3
	258	257	259	260	281					
合　計	13,707	13,438	13,376	13,196	13,581	53.0	52.0	51.6	50.7	51.0
	776	775	778	780	801					
平　均	4,569	4,479	4,459	4,399	4,527	17.7	17.3	17.2	16.9	17.0
	259	258	259	260	267					

事業所名	入所者						退所者						５年間の増減 A-B
	R6	R5	R4	R3	R2	合計 A	R6	R5	R4	R3	R2	合計 B	
みつたけ荘	4	1	4	2	1	12	3	2	1	2	5	13	△ 1
けいぷはうす	7	1	4	4	3	19	4	3	3	2	5	17	2
ブルワーク	2	5	2	2	9	20	3	5	1	8	8	25	△ 5
合　計	13	7	10	8	13	51	10	10	5	12	18	55	△ 4

※Ｒ６等の表記は「年度」を示しています。

※令和６年度末の各事業所の登録利用者数は、みつたけ荘　２０名（昨年度末１８名、一昨年度２０名)、けいぷはうす　３０名（昨年度末２７名、一昨年度２８名)、ブルワーク　１８名（昨年度末１８名、一昨年度１８名）　となっています。

上表の結果から、令和６年度における就労継続支援事業所全体の年間延べ利用者数は、昨年度実績と比較するとわずかに増加していますが、ほぼ同程度の実績と言えると思います。過去５年間の実績を見ると、「けいぷはうす」の利用実績が年々増加している一方、「ブルーワーク」の利用実績は減少しているのが分かります。「ブルーワーク」の減少傾向を何とかくい止めるために、新年度は宿泊事業に挑戦していく計画ですが、新しい取り組みへの不安をできるだけ払拭できるように十分な準備体制を整えて臨みたいと考えています。

五島市内の人口が減少を続けている中で、利用者数の減少をここ３年間抑制できていることは各事業所の努力によるところが大きいと思いますが、いずれは再度減少に転ずると思います。できるだけそうした事態を生じさせないよう、各事業所の枠を超えて相互に協力し、連携を強化しながら、これまで以上の実績を目指して欲しいと思います。

また、各事業所の入所者数と退所者数の５年間の推移を上表で見ると、令和６年度は入所者が退所者を上回って３人の利用者増加となりました。しかし、過去５年間での推移をみると退所者が入所者を上回って、４人の利用者減少となっています。

利用者の減少に歯止めをかけるためには、利用者への工賃額の引き上げという課題は避けて通れないと考えますので、現在準備中の宿泊事業の早期実現と共に、既に稼働中の就労事業内容の充実も同時に推進していく必要があると考えています。

エ）令和４～６年度の障害者福祉分野における拠点別の当期資金収支差額合計と人件費率を見てみると下表のとおりとなっています。

＜事業所別当期資金収支差額合計、人件費率＞　　金額単位（円）

	令和６年度		令和５年度		令和４年度	
拠点名	当期資金収支差額合計	人件費率(%)	当期資金収支差額合計	人件費率(%)	当期資金収支差額合計	人件費率(%)
やまゆり荘	-42,146,326	65.0	8,706,375	64.6	-8,983,954	63.2
みつたけ荘	4,311,333	65.5	8,573,100	58.4	8,125,130	56.6
けいぷはうす	7,484,579	58.2	4,877,454	59.3	8,632,929	52.7
ブルワーク	5,381,861	62.5	4,647,856	59.0	5,475,217	56.2
ＳＣゆうなぎ	3,975,198	63.6	344,777	69.0	1,218,880	64.6
合　計	-20,993,355	63.5	27,149,562	62.8	14,468,202	60.0

※　人件費率の計算は、資金収支計算書の事業活動収入の数値を用いて計算しています。

※　やまゆり荘拠点には、３か所の共同生活援助事業所、１か所の生活介護事業所が含まれて

います。
※　ＳＣゆうなぎ拠点には、１か所の相談支援事業所、１か所の地域活動支援センターが含まれています。
※　３か所の就労継続支援事業所の人件費率については、事業活動収入から就労支援事業収入を差し引いた数値を用いて計算しています。

障害者福祉分野における財務事業実績は、上表から分かるとおり、令和６年度においては大きなマイナス計上となりました。昨年度、一昨年度と比較しても資金収支としては大きなマイナス計上となっています。しかしながら、今回の結果は、「あじさいはうす」サービス区分において５０，０００千円の投資有価証券を計上したためです。この取引を計上しなければ２９，０００千円程のプラス計上になりますので、令和６年度の当期資金収支差額は、昨年度を少し上回る金額になったはずであることが分かります。

中でも令和６年度の実績において注目したいのは、ＳＣゆうなぎ拠点における当期資金収支差額が４，０００千円近い金額となっている点です。元々この拠点の事業は、委託金で賄われており、これまでも最終的な当期資金収支差額はわずかなプラス計上にとどまるのが常でしたが、今年度においては比較的大きな金額が計上されたことになります。これについては、計画相談支援事業の実績がこれまで以上に多くなったことが示唆されています。

また、障害者福祉分野全体における人件費については、年を追うごとに徐々に高くなってきていますが、目標としてきた６５％は達成できている状況です。

オ）サポートセンターゆうなぎにおいては、一般相談支援事業、特定相談支援事業、五島市の委託障害者相談支援事業、障害者支援区分の認定調査業務を最小限の職員３名で実施して来ました。五島市の委託相談支援事業においては、昨年度と比較して相談件数で１７．６％、新規相談者数で６７．８％、相談受付者実数で３．４％それぞれ増加した実績となっています。特定相談支援事業においては、昨年度と比較して年度末登録者数で１７．１％、年間利用件数で２．５％、報酬費で２９．８％いそれぞれ増加しました。また、障害支援区分認定調査においては、調査件数で１９．４％、報酬費で１９．６％それぞれ増加しました。以上のとおり、当該事業所においては、実績のなかった一般相談支援事業を除けば、実施しているどの事業においても昨年度を上回る実績を残しています。こうした実績は職員一人一人が業務に対して真摯に向き合ってきた結果であり、大いに評価できる成果だったと考えています。

そうした実績を残した事業所ではありましたが、急遽新年度からの基幹相談支援センターへの移行を打診され、事業所内で検討した結果、人員配置の問題から基幹相談支援センターとしての機能を果たすことは困難であるとの判断を五島市に伝えたところ、令和７年度からは基幹相談支援センターの役割を五島市自体が担うこととなりました。それに伴って、これまで受託してきた五島市の委託相談支援事業も当法人との契約を解除することとなりました。こうした一連の事情から、令和７年度においては、当面職員３人体制から２人体制として事業を継続運営していくこととしました。職員２人体制は運営していく上で様々な支障が出てくることも予想されますが、当面はこの体制で継続をしていきたいと考えています。

カ）地域活動支援センターについては、下表に示すとおり、直近５カ年の実績概要を見ると、減少の一途をたどっていた１日当たりの平均利用者数の減少が、昨年度ようやく収まった状

況になっていましたが、今年度も昨年度を上回る平均利用者数となりました。しかし、１０名を優に超えていた頃に比べるとその回復は未だ十分とは言えないと思います。また、平均利用者数は増加傾向を示していますが、利用登録者数は減少傾向が続いているように見えますので、この点については少し不安もあるところです。

当該事業所については、令和６年１月から、これまでのセンターⅠ型からⅢ型に変更になりましたが、そのために新しい契約では職員数がこれまでの３名から２名に減少することとなりました。２名体制といっても実質は１．５名体制のようになることから、事業所を実際に運営していくためには、他の事業所からの協力が得られる体制も早期に取っておく必要があると考えています。

利用登録者数（人）					新規登録者数（人）					１日当り平均利用者数（人）				
Ｒ６	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ３	Ｒ２	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ３	Ｒ２	Ｒ６	Ｒ５	Ｒ４	Ｒ３	Ｒ２
56	67	59	78	80		21	18	29	35	7.8	5.7	3.9	6.3	7.2

※　Ｒ６等の表記は「年度」を示しています。

キ）下五島障害者就業・生活支援センターについては、当初の目標を年間就職者８名、年間職場実習あっせん１２名に設定していましたが、結果的には年間就職者１６名（昨年度１２名、一昨年度１１名)、年間職場実習あっせん１１名（昨年度１４名、一昨年度１２名）となりました。年間職場実習あっせんは、国の条件である１０名は達成できたものの、当初我々が掲げた目標を達成することはできませんでした。

年間就職者については、３年前実績の１７名には届きませんでしたが、それに次ぐ就職者数となりました。年間就職者の委託条件である５名以上という要件から見ると充分な実績が達成できたと考えています。

また、年間の職場実習あっせん数は、昨年度を除いて、これまで委託条件の１０名以上を達成するのが精一杯という状況が続いてきましたが、その傾向は今年度も変わりませんでした。

支援対象障害者数及び相談支援件数については、各々１５６名（昨年度１４１名、一昨年度１２３名）及び1，６０３件（昨年度1，６９４件、一昨年度1，６４９件）の実績となり、支援対象者数は増加傾向にありますが、相談支援件数はこれまでの増加傾向にブレーキがかかった状況となりました。

センターの財務面では、令和６年度から生活支援等事業の委託料が６０万円程度増額されたものの、現状のままでは業務委託収入のみでの事業運営は困難なことから、事業収支のマイナス分をできるだけ縮小するために、令和７年度からは事業所としての事務所を地域活動支援センターきらり建物内に移転することとしました。

（３）役員等定数及び現員

理事１０名（現員１０名）　　監事２名（現員２名）　　評議員１１名（現員１１名）

２．理事会の開催状況

開催年月日 開催場所	出席者数	議　　題
６年　６月　７日 本部事務所	１０ （２）	【決議事項】 （１）令和５年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第４次補正収支予算案承認の件

（１３：３０ ～１５：３０）		（２）令和５年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第４次補正収支予算案承認の件 （３）令和５年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第４次補正収支予算案承認の件 （４）令和５年度社会福祉法人さゆり会事業報告書承認の件 （５）令和５年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計決算書承認の件 （６）令和５年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計決算書承認の件 （７）令和５年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計決算書承認及び監査報告の件 （８）職員資格取得資金等貸付規程一部改正案承認の件 （９）ちゃっとはうす運営規程一部改正案承認の件 (10) 下崎山民家利活用プロジェクトの推進について (11) 夏季賞与について (12) 定時評議員会の開催について (13) 高齢者福祉施設給与規程一部改正案承認の件 (14) 高齢者福祉施設非常勤職員給与規程一部改正案承認の件
６年　７月１６日 本部事務所 （１３：３０ ～１４：３０）	９ （２）	【決議事項】 （１）令和６年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第１次補正収支予算案承認の件 （２）社会福祉法人さゆり会定款一部変更案承認の件 （３）経理規程一部改正案承認の件 （４）高齢者福祉事業所就業規則一部改正案承認の件 （５）高齢者福祉事業所非常勤職員就業規則一部改正案承認の件 （６）障害者（児）福祉事業所給与規程一部改正案承認の件 （７）障害者（児）福祉事業所非常勤職員給与規程一部改正案承認の件 （８）只狩荘（指定介護老人福祉施設）運営規程一部改正案承認の件 （９）只狩荘短期入所事業所（指定短期入所生活介護・指定介護予防短期入所生活介護）運営規程一部改正案承認の件 (10) 評議員会の開催について
６年　９月２４日 本部事務所 （１３：３０ ～１４：３０）	８ （１）	【決議事項】 （１）社会福祉法人さゆり会定款一部変更案承認の件 （２）宿泊施設はえんかぜ事業計画書案承認の件 （３）宿泊施設はえんかぜ令和６年度収支予算書案承認の件 （４）旧ピュアランド改修工事資金計画案承認の件 （５）ひまわりルーム運営規程一部改正案承認の件 （６）評議員会の開催について
６年１０月３０日 本部事務所	１０ （１）	【決議事項】 （１）宿泊施設五島しよる改修工事に係る業者選定について （２）社会福祉法人さゆり会地域貢献委員会規程案承認の件

（１３：３０ ～１４：３０）		（３）高齢者福祉事業所給与規程一部改正案承認の件 （４）こもれびの舎こども園運営規程一部改正案承認の件 （５）こもれびの舎児童クラブ運営規程一部改正案承認の件 （６）只狩荘短期入所事業所（障害福祉サービス）運営規程一部改正案承認の件 （７）只狩荘デイサービスセンター運営規程一部改正案承認の件
６年１２月１３日 本部事務所 （１３：３０ ～１４：４０）	８ （２）	【決議事項】 （１）令和６年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第２次補正収支予算案承認の件 （２）令和６年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第２次補正収支予算案承認の件 （３）令和６年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第２次補正収支予算案承認の件 （４）経理規程一部改正案承認の件 （５）けいぷはうす運営規程一部改正案承認の件 （６）サポートセンターゆうなぎ及び下五島障害者就業・生活支援センターの事務所移転について （７）冬季賞与について （８）評議員会の開催について 【報告事項】 ・理事長の職務執行状況報告について ・もにす認定について
７年　３月１７日 本部事務所 （１３：３０ ～１６：００）	１０ （２）	【決議事項】 （１）令和６年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （２）令和６年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （３）令和６年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （４）法人運営費に対する施設等負担金について （５）令和７年度社会福祉法人さゆり会事業計画案承認の件 （６）令和７年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計当初予算案承認の件 （７）令和７年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計当初予算案承認の件 （８）令和７年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計当初予算案承認の件 （９）社会福祉法人さゆり会育児・介護休業規程一部改正案承認の件 (10) みはらし荘運営規程一部改正案承認の件 (11) ゆたっとはうす運営規程一部改正案承認の件

		(12) さゆり会ケアマネジメントセンター運営規程一部改正案承認の件 (13) デイサービスセンター大浜運営規程一部改正案承認の件 (14) グループホームひだまりの舎運営規程一部改正案承認の件 (15) 高齢者施設等の創設及び改修工事について (16) グループホーム鶴亀（社会福祉法人たけのこ会）の吸収合併承認の件 (17) 宿泊事業に係る施設整備資金計画案承認の件 (18) 下五島障害者就業・生活支援センターの事務所移転について (19) 評議員会の開催について 【報告事項】 ・理事長の職務執行状況の報告について

※出席者数欄の（　）内の数字は、監事の出席人数を示す。

3．評議員会の開催状況

開催年月日 開催場所	出席者数	議題
6年　6月24日 本部事務所 （13：30 ～14：30）	11 （2）	【決議事項】 （1）令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第4次補正収支予算案承認の件 （2）令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第4次補正収支予算案承認の件 （3）令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第4次補正収支予算案承認の件 （4）令和5年度社会福祉法人さゆり会事業報告書承認の件 （5）令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計決算書承認の件 （6）令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計決算書承認の件 （7）令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計決算書承認及び監査報告の件
6年　7月25日 本部事務所 （15：00 ～15：40）	8 （1）	【決議事項】 （1）令和6年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第1次補正収支予算案承認の件 （2）社会福祉法人さゆり会定款一部変更案承認の件
6年10月　4日 本部事務所 （13：30 ～14：40）	8 （2）	【決議事項】 （1）社会福祉法人さゆり会定款一部変更案承認の件 （2）宿泊施設はえんかぜ事業計画書案承認の件 （3）宿泊施設はえんかぜ令和6年度収支予算案承認の件

		（４）旧ピュアランド改修工事資金計画案承認の件
６年１２月２３日 本部事務所 （１３：３０ ～１４：００）	１０ （２）	【決議事項】 （１）令和６年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第２次補正収支予算案承認の件 （２）令和６年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第２次補正収支予算案承認の件 （３）令和６年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第２次補正収支予算案承認の件
７年　３月２５日 本部事務所 （１３：３０ ～１４：４０）	８ （２）	【決議事項】 （１）令和６年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （２）令和６年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （３）令和６年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第３次補正収支予算案承認の件 （４）令和７年度社会福祉法人さゆり会事業計画案承認の件 （５）令和７年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計当初予算案承認の件 （６）令和７年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計当初予算案承認の件 （７）令和７年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計当初予算案承認の件 （８）高齢者施設等の創設及び改修工事について （９）グループホーム鶴亀（社会福祉法人たけのこ会）の吸収合併承認の件

※出席者数欄の（　）内の数字は、監事の出席人数を示す。

４．監事監査の実施状況

実施年月日 実施場所	監査担当者	監　　査　　結　　果
６年　５月２８日 本部事務所 （１３：３０ ～１６：００）	熊川良範 荒木一郎	① 事業報告等の監査結果 ・事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。 ・理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。 ② 計算関係書類及び財産目録の監査結果 ・計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認める。
６年　５月２９日 本部事務所 （　９：３０ ～１４：００）	熊川良範 荒木一郎	

５．役員等の研修参加状況

令和６年度においては、社会福祉法人経営者協議会総会や研修会への理事長の参加を見送るとともに、他の役員や評議員の皆様方への参加斡旋も行えなかったことから、研修会等への参加実績を残せなかったことを反省しています。次年度においては、役員や評議員の皆様方への社会福祉事業の現状をより深く理解していただくためにも是非とも実績を残せるよう情報提供にも努めたいと思います。

年　月　日	研　　修　　会　　名	参加者	出席者氏名
	（特に実績なし）		

６．大規模施設等整備（５００万円以上）工事の実績

（１）令和６年度中に終了した大規模施設等整備工事の結果は次のとおりです。

金額単位：円

工事等名称・期間	工事等内容	工事業者等名称	金　額	資 金 内 訳
養護老人ホーム松寿園ボイラー機器更新工事 （令和６年７月１８日 ～ 令和６年８月２日）	ボイラー機器更新工事 給水ポンプ配管工事	こばた電設（株）	9,130,000	自己資金 9,130,000
合　　計			9,130,000	9,130,000
ひまわりルーム（あゆみの舎）増築工事 （令和６年３月７日 ～ 令和６年９月３０日）	あゆみの舎の建物一部増築工事 テラスの設置工事	（株）カミングホーム 野口建築設計室 山中建築設計事務所	当初計画工事費 24,860,000 追加工事費 550,000 設計監理費 1,342,000 110,000 行政手数料 30,000	県補助金 17,160,000 市補助金 2,860,000 自己資金 6,872,000
合　　計			26,892,000	26,892,000